

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」。鴨長明が綴ったこの一節は、世の無常観を詠んだものですが、私はポジティブに、「河は途絶えることなく発展しつづけるもの」と解釈したいと思います。

京都は永きにわたり日本の首都として、古くから諸外国との交流を重ね、多様な文化を巧みに吸収しながら融合し、絶え間なく新しい文化を創造し続けてきたまちです。まさに河の流れのように、世界との関わりの中で自らを柔軟に変化させながら、歴史や伝統に培われた文化の上に、先端科学やハイテク産業などを発展させて今日の京都を築いてきました。

近年、京都の国際化を取り巻く状況は、市民レベルでの国際交流・協力が進む一方、ニューカマーと呼ばれる外国から新しく定住される方々が増加するなど、大きく変化しています。こうした変化に対応しながら、将来にわたって京都が世界に光り輝くまちとして発展し続ける道標となるよう、「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」を策定しました。

本プランでは、国際化の目標として、「世界がときめくまち」、「世界とつながるまち」、「多文化が息づくまち」の3つを掲げています。この3つの目標に向け、京都が、国籍や民族を問わず、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な国際都市であり続けるために、全力を尽くして取り組んで参ります。

一滴の湧き水が一筋の河の流れとなり、やがて大海へと注がれる。同じく、一人一人ができる活動は、小さなことかもしれませんが、それぞれが連携を深め、行政、市民の枠を越え、さらには国境を越えて協働することによって、新しい京都をつくり出すことができると確信しております。私は、本プランを通して、京都の持つ潜在力を結集し、世界の中でも光り輝く国際都市・京都を作り出したいと思いますので、皆様方の御理解と御協力をお願い致します。

結びに、京都市国際化推進プラン（仮称）策定委員会の皆様をはじめ、プランの策定に御尽力いただきました関係者並びに市民の皆様に、心から御礼申し上げます。



京都市長

門川 大作